

2010年2月15日

内閣総理大臣 鳩山由紀夫様
環境大臣 小沢鋭仁様

中国電力の上関原子力発電所建設計画に関する 生物多様性保全の見地からの要望書

生物学研究者の組織である3つの学会（日本生態学会・日本ベントス学会・日本鳥学会）の環境保全関係委員会は、2010年1月10日、広島市の広島国際会議場で、「瀬戸内海の生物多様性保全のための三学会合同シンポジウム」を開催いたしました。このシンポジウムでは、「上関（かみのせき）：瀬戸内海の豊かさが残る最後の場所」という主題のもとに、中国電力の上関原子力発電所建設計画に対して3つの学会が提出した合計10件の要望書が総括され、以下の点の重要性が改めて確認されました。

1）瀬戸内海西部の周防灘、とりわけ上関周辺海域は、瀬戸内海の本来の自然環境と豊かな生物相が今なお良く残っているという点において、たいへん貴重な場所である。ヤシマイシン近似種などの巻貝類、カサシャミセン（腕足動物）、ナメクジウオ（原索動物）、ミミズハゼ類（魚類）、スナメリ（水棲哺乳類）、カンムリウミスズメ（鳥類）などの様々な生物群の希少種・絶滅危惧種が、この海域から相次いで発見されているという事実は、他の場所ではすでに失われてしまった瀬戸内海の生態系の本来の姿が、この海域にまだ保持されていることを示すものである。これは、瀬戸内海全体の現状からみれば、「奇蹟的」とすら言えることである。したがって、今日の国際的合意である「生物多様性保全」の見地から、ホットスポットとしての上関周辺海域の環境保全には格段の配慮が必要である。我々の生存基盤を支えている生物多様性を次世代に引き継がねばならないことは、生物多様性基本法（添付資料1参照）や瀬戸内海環境保全特別措置法（添付資料2参照）にも明記されている。

2）中国電力による上関原子力発電所建設計画に係る環境影響評価（2001年）は、この海域の特殊性に配慮したものとは言えず、問題の多いものであった。私たちは、これまで一貫して、科学的により説得力のある環境影響評価を求めてきた。しかし、中国電力は、私たちの要望を考慮することなく、海域埋め立て工事を着工しようとしている。

3）原子力発電所は、通常の運転にともない、同規模の火力発電所に比べて、より大量の熱を海に捨てる。この過程（冷却水の取水・放水）における急激な水温上昇と付着生物防止剤（＝殺生物剤）によって、水中の小さな生物（魚類の卵・稚仔を含む各種のプランクトン）が大量に死滅する。このため、原子力発電所の建設は、海の生態系に対して、単純な海域埋め立てよりも、はるかに大きな影響を及ぼす。上関は、半閉鎖的でかつきわめて生物生産力の高い内海に位置するので、この問題が一層慎重に検討されねばならない。しかし、中国電力は、この点に関して十分な調査と検討を行わないまま、「影響は少ないものと考えられる」と結論している（添付資料3参照）。海外の研究例では、二枚貝の幼生プランクトン

は付着生物防止剤に特に弱いという知見がある。したがって、この問題に対する慎重な影響評価とそれに応じた対策を怠ったまま計画を進めれば、上関周辺だけでなく広島湾のカキ養殖等にも影響が及ぶような漁業被害が発生する恐れがある。また、それに加えて、恒常的な温排水の放出による局所的な水温上昇は、イカナゴに代表される冷水系の生物を減少させ、熱帯性外来生物の瀬戸内海への侵入を促進する恐れもある。このような漁業被害が発生した場合の社会的損失ははかりしれなく大きい。そのような被害を未然に防ぐことは、何よりも重要である。

4) カンムリウミスズメは、国の天然記念物であり、きわめて生息数が少ない「絶滅のおそれがある種」として、世界的に注目されている海鳥である。中国電力による調査結果を含めて、最近の研究によって、上関周辺海域が本

種の周年生息域である可能性が高まった。この地では、2008 年以降、育雛中の家族群が毎年確認されているが、そのような場所は、他には全く知られていない。日本国政府は、カンムリウミスズメの保護のためにも上関周辺海域の自然環境保全に最善の努力をすべきである。それは、本年 10 月に名古屋で開催される第 10 回生物多様性条約締約国会議の議長国としての責務でもある。

以上のことから、私たちは、日本政府に対して、次のことを要望します。

- 1) 生物多様性保全の見地から、上関原子力発電所建設計画に係わる海域埋め立て工事の一時中断を中国電力に対して指導すること。
 - 2) 3 学会から提出された要望書の内容に沿った適正な調査の実施を支援すること。
- 以上。

日本生態学会・自然保護専門委員会 委員長 立川賢一

日本鳥学会 鳥類保護委員会委員長 早矢仕有子

日本ベントス学会 自然環境保全委員会委員長 逸見泰久

本件の連絡先

日本生態学会上関原子力発電所問題要望書アフターケア委員会

安溪遊地（山口県立大学国際文化学部教授）

〒753-8502 山口市桜畠 3-2-1

Tel: 083-928-5496、e-mail: ankeiyuji@gmail.com

佐藤正典（鹿児島大学大学院理工学研究科教授）

〒890-0065 鹿児島市郡元 1-21-35

Tel: 099-285-8169、e-mail: sato@sci.kagoshima-u.ac.jp